

問診による捕捉調査の実施状況及び  
HEV20 プール NAT スクリーニング実施状況について  
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

はじめに

HEV は主として経口感染と言われていることから、ウイルス血症の献血者を問診の充実により排除することが可能かどうか検討している。

まずは、HEV 陽性率の高い北海道において平成16年11月1日から「過去3ヶ月以内に豚、鹿、猪等の生肉を食べましたか。」と確認し、該当献血者の血液検査の実施結果報告及び、HEV 20 プール NAT スクリーニング実施状況について報告する。

1. HEV 問診調査状況

北海道赤十字血液センター管内  
調査期間:平成16年11月1日～平成17年6月30日

	ブタ	シカ	イノシシ	不明	合計
男性	129 (0.11)	249 (0.21)	0 (0.00)	99 (0.08)	477 (0.41)
女性	58 (0.07)	82 (0.10)	1 (0.00)	52 (0.07)	193 (0.25)
合計	187 (0.10)	331 (0.17)	1 (0.00)	151 (0.08)	670 (0.34)

( ): 期間内献血者総数に対する割合%

男性献血者総数 : 117,063

女性献血者総数 : 78,182

総献血者数 : 195,245

○HEV-RNA 検査結果

検査した 670 本から HEV-RNA は 1 本検出された。

2. HEV 20 プール NAT スクリーニング

北海道赤十字血液センター管内  
調査期間:2005年1月1日～2005年6月30日

	総数	HEV-RNA 陽性	陽性率
男性	90,631	7	1/12,947
女性	60,905	5	1/12,181
合計	151,536	12	1/12,628

遡及調査については、「血液製剤等の遡及調査ガイドライン」に基づき実施している。

遡及対象製剤は 12 件のうち 3 件あり、2 件は血小板製剤が輸血されていたが、医療機関から得られた情報では、現時点で患者さんは HEV-RNA 陰性・HEV 抗体陰性であった。

また、残り 1 件は赤血球製剤が供給されたが、医療機関で破損のため廃棄されていた。